

オオミヤへの想い

ありそうでない、でも少し手を伸ばすと届きそうな未来の街、「オオミヤ」を表現しました。街の主人公が人へシフトしていき、暮らしと街がひとつとなって、未来のふるさと、「オオミヤ」へ希望いっぱいに変化していきます。ミチを再構築した空間でのオープンカフェ、建物1階をまちに開いたマーケット、街中を自由に駆け回る電気自動車、家族で楽しめる博物館など、この街にはたっぷりのわくわくが詰まっています。

クチトテ www.qutitote.jp

お問い合わせ

さいたま市 都市局都心整備部大宮駅東口まちづくり事務所
〒330-8501 埼玉県さいたま市大宮区吉敷町 1-124-1 (大宮区役所6階)
TEL : 048-646-3291 FAX : 048-646-3292
Mail : omiya-higashi-machidukuri@city.saitama.lg.jp
主催 : さいたま市 協力 : 一般社団法人アーバンデザインセンター大宮
デザイン : クチトテ 作成日 : 2022年5月

※この冊子は2,000部作成し、1部あたりの印刷経費は81円です。



PROJECT REPORT

プロジェクトレポート
Vol.2

マチミチ
コンペIN

大宮ウォーカーブルシティ
MACHI MICHİ COMPETITION



はじめに

元来、日本の街路は人々が出会い、交流を図る地域のコモンスペースとしての役割を果たしてきました。

かつて、中山道の宿場町として栄えた大宮も、その歴史的背景により、路地に代表されるような独自の街路網が形成され、それらを起点に大宮独自の文化や雰囲気形成してきました。

一方で、高度経済成長期を迎えた日本では、街路はクルマ中心の空間となり、大宮でも、限られた空間を人とクルマが共存するようになりました。

そして、現在、街路に求められる役割は大きく変化し、原点ともいうべきコモンスペースとしての在り方が再び注目されるようになってきました。

この「マチミチコンペ in 大宮ウォーカブルシティ」では、今後、大宮が人中心で居心地が良く歩きたくなる「ウォーカブル」なまちとなることで、人々が行き交い、様々な出会いと交流が生み出される場所となるような、新しいアイデアを募集しました。

皆様からいただいたたくさんの素敵なお提案・アイデアは、これからの大宮のまちづくりを進めていく上での大切な財産として温めていきます。

最後に、このコンペにご応募いただいた提案者の皆様、そしてコンペの実施にご協力いただきましたすべての皆様へ心より感謝を申し上げます。



テーマ

大宮の歴史・文化等の「大宮らしさ」を活かした、
人中心で居心地が良く歩きたくなる「ウォーカブル」なまちづくり

モデルプロジェクト部門

モデルプロジェクト部門は、大宮駅周辺におけるウォーカブルなまちづくりを推進するための具体的な施策を募集するアイデアコンペです。推進戦略の柱として検討している以下の項目に関する施策（アイデア）を募集します。

- 1 まちとまちの回遊性/まちの中での回遊性
- 2 まちの滞在性
- 3 みちの質やまちの魅力が維持する仕組み
- 4 その他

プレイヤー部門

プレイヤー部門は、提案者に「大宮のまちでこんなことがやりたい!」というプロジェクトをご提案いただく、プレイヤー発掘型の企画提案です。以下の項目を踏まえた提案を募集します。

- 1 活動を実施する具体的な場所
- 2 活動を継続させるためのアイデア
- 3 活動を実施するまでのプロセス

対象区域

提案の対象は、都市再生整備計画（大宮駅周辺地区（第2期））の中で滞在快適性等向上区域（以下、「ウォーカブル区域」という。）に指定しているエリアの公共施設等[※]を基本とします。さいたま新都心との連携など、ウォーカブル区域外へ波及する提案も可とします。

※本コンペにおいて、公共施設等とは、公園のほか、それらと接する沿道の民間敷地、さらには沿道の建築物等土地利用を含めた空間全体のことをさします。



審査員

馬場 正尊

株式会社オープン・エー 代表取締役
東北芸術工科大学 建築・環境デザイン学科教授

小嶋 文

埼玉大学
理工学研究科准教授

川村 郁夫

さいたま商工会議所 常議員
(街づくり・観光委員会 委員長)

田中 元子

株式会社グランドレベル
代表取締役社長

今 佐和子

国土交通省 関東地方整備局
都市整備課長

小川 博之

さいたま市
副市長

※所属・役職は2022年2月時点

審査の様子

1次審査

大宮の未来が詰まった多数の応募作品より、最終審査へと進む作品が決定！

各部門において、最終審査に進む5作品を選出する審査が実施されました。モデルプロジェクト部門については、4作品の選出が確定し、残り1作品を選出する際、候補2作品の提案内容が「一点重視的な提案」と「総合的な提案」で対照的であり、どちらかに絞ることはできないという審査委員の視点を重視した結果、急遽6作品の選出となりました。



最終審査

一次審査通過作品の各提案者の熱いプレゼンを受け、投票および審査により各賞決定！

新型コロナウイルスの状況により、関係者及び提案者以外は無観客のオンライン併用開催となりましたが、オンライン投票を用いた人気作品の決定とともに、各審査委員からも活発な意見が飛び交う審査状況となりました。大宮の未来を本気で考える素晴らしい各作品とそのプレゼンから、モデルプロジェクト部門・プレイヤー部門の各賞を決定しました。



結果発表

2022年1月18日(火)開催の1次審査にて、全31作品よりモデルプロジェクト部門6作品、プレイヤー部門5作品が選定され、2月19日(土)開催の最終審査を経て、以下の通り各受賞作品が決定しました！

モデルプロジェクト部門

最優秀作品

NO.13 心も体も満たされる、ウェルビーイングな大宮マチミチへ

優秀作品

NO.19 ニワノナカニアルマチ

入賞作品

NO.1 モビリティ・アーバニズム

NO.8 Connect ~“大宮らしさ”で生む繋がり~

NO.12 みちでみちる わたしの暮らし

NO.16 大宮を照らし出す

プレイヤー部門

ダブル受賞

会場人気投票特別賞作品・審査委員特別賞作品

NO.8 大宮を“みまもぶ”の住むマチへ

入賞作品

NO.3 KIDS HOUSE

NO.4 さいたま市内歩道の上を緑に

NO.6 JACK OMIYA JACK

NO.11 'ミズミチ=ヨリドコロ・イドコロ・ヨイトコロ

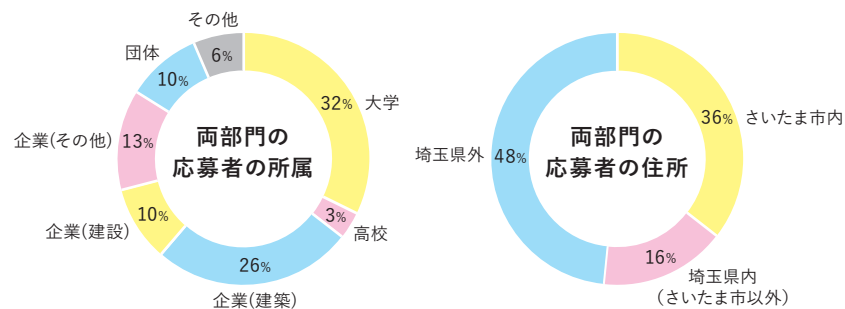
応募件数・応募者の属性

ご所属や居住地等、様々な方の応募がありました。幅広い層から関心を持っていただいたことがわかります。

応募件数

モデルプロジェクト部門 **20** 作品
プレイヤー部門 **11** 作品 **総勢 113** 名からのご提案！

応募者の属性



NO.13 心も体も満たされる、ウェルビーイングな大宮マチミチへ

小川次郎（アトリエ・シムサ）・土佐谷勇太（ひまファクトリイ）・木下芳郎（日本工業大学）

概要

概要

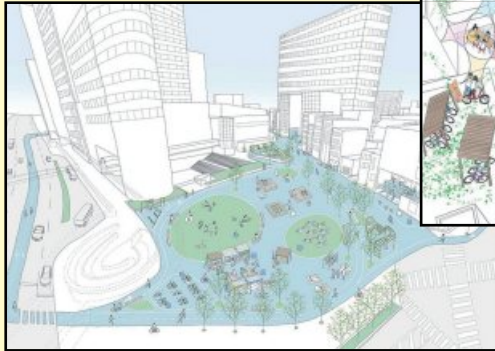
モデルプロジェクト部門の紹介

プレイヤー部門の紹介

審査委員長と副市長の対談

大宮の今後について

大宮停車場大成線エリア
リフレッシュ・サーキュレーション：〈個を高める〉ウォーカブル



一の宮通りエリア
ヨハク・アクティベーション：〈人と交わる〉ウォーカブル

人びとの心と体の健康を満たす ウェルビーイングな21世紀の大宮像

地域特性を生かしたライフスタイルを育み、人びとの心と体の健康を満たすウェルビーイングな21世紀の大宮像を提案します。異なる特性・課題をもつ2つの街を対象に、〈個を高める〉ウォーカブル（西口：大宮停車場大成線エリア）と〈人と交わる〉ウォーカブル（東口：一の宮通りエリア）として、新しいライフスタイルをコンセプトにしたマチミチづくりを行います。2つの街の経験を通じて、人びとの「心」と「体」を満たし、ウェルビーイングな営みを地域全体へ浸透させます。

／ アピールポイント ／



上：西口、下：東口のモックアップ

会場を湧かせたリアルな模型

学生たちの協力を得て、提案部分の模型を製作しました。東口は一の宮通りに沿った小スケールの路地的空間、西口は鐘崎公園周辺の大スケールな都市的空間といったように、提案の特徴を踏まえたマチミチの風景が現れるように工夫しました。

／ 審査講評 ／

わかりやすい！ウェルビーイングな象徴的な場所であると認識されるまでが重要！

馬場委員長 ウェルビーイングはわかりやすい。市民へのプロモーションについて、ウェルビーイングな象徴的な場所であると認識させるまでが重要だと思う。

小嶋委員 歩行者を守りつつの提案がよかった。ランナーと歩行者の摩擦に対する対応は必要である。

川村委員 大宮駅周辺の未来を語って頂いたが、これまでの背景、過去を踏まえた提案がなされていた点がよかった。



／ 入賞者からのコメント ／

とても面白く、また考えることの多いコンペでした。「道を人びとが居なくなる場所に変わる」という試みは、都市空間を単なる消費活動の場としてだけでなく、人びとの居場所として取り戻すことでもあります。誰もが自分の居心地の良い場所を見つけ、心ゆくまで滞在できる……これからの都市空間がそのような場になっていくことを願い、提案しました。



モデルプロジェクト部門の紹介

プレイヤー部門の紹介

審査委員長と副市長の対談

大宮の今後について

モデルプロジェクト部門 優秀作品

NO.19 ニワノナカニアルマチ

萩野一彦・甲斐徹郎・鈴木綾（ランドスケープ経営研究会）他3名



いたるところに何かの行為を行う場がある大きなニワの中にあるマチ

「氷川参道」と「見沼田んぼ」に跨るエリアを対象に『氷川・見沼ウォークブルエリア』の形成を提案します。これにより、ウォークブルなおもてなし空間を、東日本の玄関口としてだけでなく、大宮駅周辺の市民の生活のニワとして、大宮らしい自然的資源や農的資源を活かしたエリアに拡大することができ、氷川参道を共有した二つのウォークブル区域を両輪とした大宮東口地域のまちづくりを構想できます。

入賞者からのコメント 優秀賞ありがとうございます。コンペには、ランドスケープ経営研究会（LBA）として参加しました。今後の推進戦略検討への参画を楽しみにしています。（LBA 代表幹事：萩野一彦）

／ アピールポイント ／



私たちは、提示された「ウォークブル区域」に加え『氷川・見沼ウォークブルエリア』を提案し、二つのウォークブルエリアを両輪とした、大宮のまちづくりを構想しました。そして、全ての住人が「もてなす側」になり連鎖反応を生み出すことを目指しました。

モデルプロジェクト部門 入賞作品

NO.1 モビリティ・アーバンイズム

寺原女惟（明治大学大学院佐々木宏幸研究室）他5名



2040年までに想定される交通モードの変化、多様な移動手段と歩行者との最適なバランスを考慮し、変化に対応したフレキシブルな空間活用により、居心地よく多様な交流を生み出す街路空間を提案します。

入賞者からのコメント 非常にチャレンジングなテーマについて力を入れて取り組んだことで、私たちの成長を感じています。

NO.8 Connect ～“大宮らしさ”で生む繋がり～

泉山塁威（日本大学理工学部建築学科都市計画研究室（泉山ゼミ））他9名



大宮にある資源（商店街、一の宮通り等の個人商店、氷川参道等）が持っているポテンシャルを最大限に引き出し、各地点を「繋ぐ」道路をウォークブルなストリートへと変えていきます。

入賞者からのコメント この度は、輝かしい賞を頂戴し光栄です。世代を超えて大宮の未来を考えた時間は、一生の宝物です。

NO.12 みちでみちる わたしの暮らし

吉武駿（スタジオハタケ）他1名



道やその周辺の空間を活用・整備することで、相反するような空間構造により偏在している大宮らしいシーンを日常の行為と統合し、住みやすい環境と多様な暮らしを連鎖的にまちへと広げます。

入賞者からのコメント 会場票1位、審査員票も同率1位を頂き嬉しく思います。今後も大宮の未来を皆さんと考えていきたいです。

NO.16 大宮を照らし出す

平野悠哉（合同会社 ai level）他5名



歩いて楽しい場所・大宮らしさを新しく作るのではなく、夜間景観を都市の要素からリノベーションすることで、大宮らしさを照らし出し、新たな大宮の一面を導き出します。

入賞者からのコメント 通りごとの活動を一ずつつ照らし出し、らしさが輝きの源になるミチを生み出したいと思い提案しました。

プレイヤー部門 会場人気投票特別賞作品 + 審査委員特別賞作品

NO.8 大宮を“みまもぶ”の住むマチへ

菊池優美（栄東高等学校美術部）



“みまもぶ”＝「マチを見守るモブキャラクター」

“みまもぶ”は「マチを見守るモブキャラクター」の略であり、マチの中に潜むアレやコレをキャラに描きかえたものです。例えば大宮駅構内の案内板に、大宮銀座通りの花壇やマンホールに“みまもぶ”を描くことで場に親しみがもてたり、明るくすることができます。“みまもぶ”をウォークアブル区域内にたくさん描き、ふとした時に“みまもぶ”を見つけることで、「歩きたい」につながるようなマチをつくっていきます。

／ アピールポイント ／



キャラクターは誰でも楽しめる美術です。親しみをもてたり、場を明るくすることができる、そんなキャラの力を借りた“みまもぶ”で、見つけた人の場が明るくなれば嬉しいです。今後も精進して参りますので、SNS等で“みまもって”ください！



／ 審査講評 ／

「あなたらしさ」をマチに出すのはすばらしく、心打たれた提案！

田中委員 あなたらしさをマチに出すのはすばらしい。いろいろなキャラを心にとどめている人がいると思う。いろいろなキャラが表出するチームづくりをしてほしい。

馬場委員長 ビジュアルインパクトがたまらなかった。まちづくりにも見えるし、アートパフォーマンスにも見える。高校生からこのような提案があるのは本当に嬉しいので、ぜひトライしてほしい！また、美術部にとどまらずたくさんの人に広げてほしい。小川委員 まちに関心を持ってもらう高校生をふやしていきたい。SNSでも発信してほしい！



／ 入賞者からのコメント ／

自分のやりたいことをプレゼンさせて頂けたのは初めての経験で、評価して頂ける場があることは幸せなことだと思いました。緊張の連続でしたが、会場の皆さんが初めて聞いたはずの“みまもぶ”という言葉が会話の中で普通に使って下さっていたのがその日一番の感動です。“みまもぶ”が溢れる会場の空気感は忘れられません。本当にありがとうございます！



特集 “みまもぶ”を ふかぼる!



まちを見守るモブキャラクター“みまもぶ”の生誕地である栄東高等学校をご紹介します!

さいたま市の北部、見沼区に位置する栄東高等学校。そこには、提案者である美術部の菊池さんが生み出した、まちを見守るモブキャラクター“みまもぶ”が出現しています!校内の図書館には本の返却ボックスに扮した“みまもぶ”や、トイレの扉にまで“みまもぶ”がひょっこり!様々な物語

を連想させる“みまもぶ”たちは、生徒たちの様子をいつも楽しげに見守っています。菊池さんの手によって命を授かった“みまもぶ”たち。今後大宮のまちにも“みまもぶ”たちが突然登場するかも。市民や来訪者がまち歩きを楽しんでもらうきっかけとなる、大宮のキャラクターになっていくと思われます。

大宮駅周辺で行われる「アートフルゆめまつり」にも、栄東高等学校美術部としてライブペインティングに参加されています!

「アートフルゆめまつり」は、毎年度、大宮の各所で音楽や文化表現イベントが行われる芸術祭。栄東高等学校では、中学校美術部と合同で、大宮駅周辺の注目を集める場所にて、ライブペインティングをおこなってきました。「大宮駅コンコース」や「大宮銀座通り」といった多くの人が行き交う場所で表現することをイベントで経験されつつ、もしかすると“みまもぶ”も付近に突然出現するかもしれませんよ?



NO.3 KIDS HOUSE

大石かおり(りんごスタジオ・大石かおり一級建築士事務所)他2名



心のケアとして考案した段ボール製のキッズハウスを子供達と組み立て、仕上にみんなで絵かき工作等で飾ることで、楽しく防災意識を高めることができ、地域の交流も図ることができます。

入賞者からのコメント いつ来るかわからない「もしも」の時に備えて、できるだけ多くの子供たちと一緒に組み立てを楽しみたいです。

NO.4 さいたま市内歩道の上を緑に

目黒道夫



緑は気持ちに安らぎを与え、夏の暑い日差しを避けてくれます。まずは既存のバス停の緑化から始め、ゆくゆくは歩道の上を全て緑で覆い全国にここだけにしかない特色ある街並みを形成します。

入賞者からのコメント さいたま市 歩道の上に みどり咲く 雨の日も 夏の日差しに 負けないで 緑回廊 大宮の街

NO.6 JACK OMIYA JACK

前田旭陽(ランドスケープさいたま)他7名



JACK 大宮南側広場の持つポテンシャルを活かし、行き交う人々が日常的・恒常的に活用し、「大宮らしさを育む場所の創出」、「周辺エリア価値の維持向上」を地域全体で考え、カタチにしていきます。

入賞者からのコメント 入賞に選んで頂きありがとうございます。今後は実践に向けて取り組んで参ります。ぜひご期待ください。

NO.11 'ミズミチ=ヨリドコロ・イドコロ・ヨイトコロ

樋口彩土(ランドスケープ経営研究会)他3名



「ミズミチ」は、だれでも、ひとりでも、はじめてでも“ヨリドコロ”となる道。入ってみれば自分の“イドコロ”がある道。出ていくときは、また来ようと思う“ヨイトコロ”を創りだします。

入賞者からのコメント 水が緑を育み、緑が環境を作り、環境が地域を創り、ウォークアブルへ繋がる点が評価されたと思っています。

馬場審査委員長 × 野原メインMC × 小川副市長

主催者も応募者も

本気になったコンペ。

この熱量をどう政策に

活かしていくかが本当の勝負。

初めての試みとなった「マチミチコンペ in 大宮ウォークラブリシティ」。2022年2月19日に行われた最終審査は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から急遽応募者及び関係者以外はオンライン参加となりましたが、審査会場は大いに盛り上がりました。その熱気がまだ余韻として残る中、馬場審査委員長、最終審査でメインMCを務めた横浜国立大学の野原准教授、小川副市長の3名で今回のコンペを振り返りました。



写真左から 副市長：小川 博之氏、審査委員長：馬場 正樹氏、メインMC：野原 卓氏

応募者の思いがあふれたコンペに

小川 まずは、コンペについて率直な感想をお聞かせください。

野原 本日の最終審査は**活気に満ちて**いましたね。受賞者が**高校生から70代まで幅広く**たのが象徴的でした。高校生がまちづくりに興味を持って、しかも自分のやりたいことをまちづくりの中で実現する提案をしてくれたのは印象に残ります。そもそもこのコンペ自体も、度量が広くかつ賞金も出て、さらに今後も政策に関わりを持っていくという、**ウォークラブルなまちづくりにおいて画期的**なものでした。そのような場に参加できて楽しかったです。

馬場 私も最初にこのコンペのことを聞いたときは「本当にやるの?」と驚きましたが、いざやってみると、提案者は**本気でプランを出して**きましたね。この本気に応えないといけなから、行政側にも覚悟があります。コンペの熱量は、アイデアを実際の政策に取り込んでいくという**行政の覚悟**が呼び込んだと思いました。

小川 各委員も最終審査後に話していましたが、結果だけでなく「**来年度にどう生かすか**」が大事ですよな。

そこをしっかりとやっていきたいと思っています。

馬場 最終審査では「**当事者**」というキーワードが出てきました。プレイヤーと計画者（モデルプロジェクト）の2部門がそれぞれ別々にあるというのは、**コンペ史上初**ではないでしょうか。高校生から地元に近い大学の大学生、そして地元の設計事務所などプロからも**かなり気合の入った提案**をもらい、本当にレベルの高いコンペになりましたね。

野原 一次審査のプロセスを書類で拝見すると、書類の紙面に情熱、**自分たちの思いが強く**でいるものが通過し、そしてプレゼンの場面ではその**情熱がすごく伝わり**ましたね。これだけのパワーが出てくるというのは、すごく大事にしたいですね。

小川 モデルプロジェクト部門は当初は入賞が5つだったところ、「どうしても」と一つ増やさせていただきました。結果的にはよかったと思っています。



人材の多様さが街の多様さを生み出している大宮。

人の輪を広げてウォーカブルなまちづくりに取り組む。



副市長：小川 博之氏

ウォーカブルなまちづくりには「歩きたい」という動機づけ

小川 ウォーカブルなまちづくりを実現するためのキーワードは何でしょうか。

馬場 最終審査の挨拶でも話しましたが、やはり「モチベーション」でしょう。歩きたくなる目的があることが大切です。それをどう作るか、それに対する回答が今日のプレゼンテーションの中にもいくつかあったように思います。

野原 モチベーションは大事ですよね。誰が何のために歩いたり過したりするのかと考えるのが重要だと思います。そのためには、「大宮らしさって何？」と考えるのも大切ですよ。今日の審査でも「どのような照明が大宮らしいのか」というディスカッションがありました。

馬場 その話はおもしろかったですよね。

野原 路地もそうですが、雑多な部分を大宮らしさとするか、ごちゃごちゃしているとするかという分かれ道ですね。「いい」「悪い」ではなく、「大宮らしさ」についてディスカッションが深まると面白いですよ。

馬場 大宮のポテンシャルは都市のすぐ外にとても豊かな自然があるという、今まで大宮がプロモーションしてこなかった切り口を提示してくる案もありましたね。都市部と自然の融合というのをうまくやっているアメリカのポートランドのような都市もあるので、すごく大きなヒントだと思いました。

小川 どうしても「ウォーカブル」というと街中をイメージしやすいですが、住宅地のウォーカブルというのは住民も巻き込んでいく新鮮な提案でしたね。

大宮らしさを追求し、個性を出していく

馬場 大宮は大都会だけど、見沼田んぼのような自然も周辺にはあって、都市開発によって生まれた新しいきれいな街もあれば、ごちゃごちゃしたカオスもあります。全部あるというのが、大宮らしさで強みだと思います。その圧倒的な多様性みたいなものを武器にしていくと強い、と最終審査に参加しながら考えました。「区画ごとに特徴をより強める」というのも有効なのでは、と思います。

小川 東口はネオン街もありますが、区役所に行く途中の氷川緑道西通線は整備され、少し足元を照らすような照明となり、非常に雰囲気の良い通りになっています。場所ごとに魅力が異なるので、それをしっかり考えていく必要がありますね。

野原 大宮駅の東西で大きく街並みが異なります。今回の応募の中に「異なるものを混ぜる」という提案がありましたが、むしろガンガン競争していくのがいいのかもしれない。その結果「両方よくなった」という効果がありそうです。

馬場 キャラが異なる場所に競争原理が働く強いですよ。

馬場 キャラが異なる場所に競争原理が働く強いですよ。

まちづくりの担い手は？大宮の豊富な人材に期待

小川 ウォーカブルなまちづくりにおいて、行政と民間はそれぞれ何を担えばいいでしょうか。

馬場 今回のコンペでもう少し切り込んでほしかったのが、「プロジェクトを担うのは誰なのか」という部分でした。そして、「行政と市民」はどの案でも登場しましたが、企業についてはほとんど言及されませんでした。大宮は体力のある企業がたくさんあるので、企業を巻き込んでいければ、より実現しやすくなります。

野原 行政でも民間でも「なんとかしたい」と強い思いを持つ人がいるかどうか、というのがカギになると思います。最初の火起こしをできる人がいないと、何事も進みません。もちろん、道路を管理する行政は必然ですが、道だけきれいになっても、住民がのってこなければ意味がありません。

今回はコンペという形で、まず民間からプランを集め、それに行政がどう乗っていくかという順番でやるという進め方においても、このコンペは意義がありました。

馬場 その解釈は興味深いですね。具体的な当事者になろうとしている人たちの声をコンペで聞き、出てきた案を戦略にしていこうというのは、新しい進め方かもしれないですね。

野原 この熱を一過性にするのはもったいないので、ぜひこれからも続けてほしいですね。この盛り上がりをつくる力を大宮は持っているのを改めて認識しました。多様な案が出て、自然をウォーカブルにつなげるという、大宮ならではの案も出ました。今回水の話も出てきましたが、そもそも大宮の街は湧き水から生まれたという1000年以上の話も抱えつつ、高校生がアイデアを出す…すごい資源に満ちています。

馬場 大宮は人材が豊富ですね。今回のコンペでは潜在的な人材が浮かび上がりました。人材の多様さ自体が大宮の多様さに結びついているので、大切にしてほしいですね。



メインMC：野原 卓氏



審査委員長：馬場 正尊氏

大宮の今後について

大宮ウォークアブルシティのこれから

2015年9月の国連サミットでは、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標「SDGs」が採択され、国際社会として地球上のすべての人々の幸せの実現に向けた持続可能な社会構築が求められています。

一方、国内においては2016年に「Society5.0」が提唱され、IoT、ビッグデータ、AI等最先端の技術を活用して経済発展と社会的課題の解決を両立し、誰もが快適で活力に満ちた質の高い生活をおくることができる社会の実現に向けた取組が進められています。モビリティ分野においても、「CASE」と称されるコネクテッド、自動化、シェアリング&サービス等が進み、100年に一度のモビリティ革命と言われる時代にあります。

このような社会潮流においては、技術革新による人・モノ・サービスの移動の効率性、安全性、環境性、快適性等を極限まで高めた道路、また、全ての人々が持続的に幸せを享受できる道路に「進化」するチャンスと捉えることができます。

そのため、大宮においても、様々なストリートを行きたくなる、居たくなる美しい道路にグレードアップすることで、卓越したモビリティサービスや賑わいと交流の場を提供する空間の創出を目指します。このような道路空間は投資を呼び込み、国際都市としての大宮の魅力の向上につながります。

大宮を世界に選ばれる都市「大宮ウォークアブルシティ」へと前進させる「進化」と大宮らしさをさらに深めていく「深化」の両面で、大宮を「シンカ」させるべく皆さんと力を合わせてまちづくりの歩みを進めます。

応募作品一覧

各作品の応募者・所属等については、さいたま市ホームページをご覧ください(下記QRコードよりアクセス可能です)。なお、各作品の著作権・意匠権等の知的財産権は、応募者に帰属します。

モデルプロジェクト部門

■最優秀賞 No.13 心も体も満たされる、ウェルビーイングな大宮マチマチへ ■優秀賞 No.19 ニワノカニアルマチ ■入賞 No.1 モビリティ・アーバニズム / No.8 Connect~“大宮らしさ”で生む繋がり~ / No.12 みちでみちる わたしの暮らし / No.16 大宮を照らし出す ■その他応募作品 No.2 お天道さいたま / No.3 大宮パブリックコンテナストリート / No.4 漫遊記 / No.5 OOPR LogiCul Town OOMIYA / No.6 鐘姫と桜の今昔小路 / No.7 氷川参道のような、憩いの場となる新たな都市軸をつくる。 / No.9 大宮をのぞく / No.10 共存・共生・共栄 / No.11 Moving City / Omiya / No.14 Omiya Switch Street / No.15 あつまれ!ぼくたちの大宮へ / No.17 “みどり”とバスで大宮を編む / No.18 ケモノミチオオミヤ / No.20 コモンストリートの提案



こちらよりご覧ください

プレイヤー部門

■会場人気投票特別賞・審査委員特別賞 No.8 大宮を“みまもぶ”の住むマチへ ■入賞 No.3 KIDS HOUSE / No.4 さいたま市内歩道の上を線に / No.6 JACK OMIYA JACK / No.11 ミズミチ=ヨリドコロ・イドコロ・ヨイトコロ ■その他応募作品 No.1 エコな街大宮 / No.2 OMIYA_MACHI_BENCH / No.5 かしぶれ Kashi-isu place / No.7 OMIYA CINEMA / No.9 Omiya Open→Barrier / No.10 たいだいま工事中。



こちらよりご覧ください

各審査委員からのコメント

※所属・役職は2022年2月時点



馬場 正尊 氏

株式会社オープン・エー 代表取締役
東北芸術工科大学 建築・環境デザイン学科教授

このコンペがきっかけで、さいたま市の新たなプロジェクトが動き始めることになります。それが実現したとするならば、このプロセス自体が画期的なものになるのではないのでしょうか。アイデアが実現することを期待して楽しみにしています。



小嶋 文 氏

埼玉大学
理工学研究科准教授

どの提案も、大宮に集う人々を喜ばせたい、ワクワクさせたい、心地よくしたいといった、提案者の方々の気持ちがあふれるものでした。素晴らしいアイデアや熱意を持った方々と大宮を盛り上げていく事業に参加させていただき感謝します。



川村 郁夫 氏

さいたま商工会議所 常議員
(街づくり・観光委員会 委員長)

マチマチコンペの審査委員に、さいたま商工会議所と地元高齢者(?)の代表として参加させていただいたことに感謝申し上げます。10代から上の沢山の若者やグループの大宮の街への『夢』に触れられて、安心しました。次も期待しております。



田中 元子 氏

株式会社グランドレール
代表取締役社長

歩きやすさとは、地域活性化でも課題解決でもない。歩道でおもしろいことをやってみる大喜利でもない。では何だろう?本コンペは、人々が今そしてこれからの大宮をどう歩き、どう生きるか真剣に模索する、エキサイティングな機会となった。



今 佐和子 氏

国土交通省 関東地方整備局
都市整備課長

多世代の方からの応募で、その幅と質の高さに驚きました。個人的には、若い方やお子さん目線のものが印象的で、子どもたちが屋外ではしゃぐ様子が思い浮かびました。行政側の提案を受け止める姿勢も心強く、大宮のこれからに期待大です。



小川 博之 氏

さいたま市
副市長

大勢の皆様から応募いただき、ありがとうございました。受賞作品だけでなく、その他の作品も素晴らしい提案でした。今後のまちづくりに活かしていきたいと考えております。大宮駅周辺がより魅力的な空間となるようご協力をお願いします。